



東京外国語大学

Tokyo University of Foreign Studies

大学院総合国際学研究所
博士前期・後期課程案内

2020

C o n t e n t s

研究科長メッセージ	2
総合国際学研究科概要	3
博士前期課程	4
将来につながるキャリア	4
世界言語社会専攻	6
国際日本専攻	8
開講科目	9
博士後期課程	10
世界言語社会専攻	10
国際日本専攻	11
共同サステナビリティ研究専攻	12
教員一覧	13
主な就職先	14
2020年度入学者選抜日程	15

研究科長メッセージ

近年、AIに代表される情報技術の急速な発展や人・もの・情報・資本のグローバル化の拡大が進んでいます。大量のデータが溢れかえる一方で、ともすれば自分が知りたいことだけしか理解しようとしない風潮のなかであって、今こそ再評価をしなければならないのは、深い教養と広い視野のもとで、人・文化・社会の本質的な意味と価値を考える力、すなわち「人文学の知」であると思います。

東京外国語大学の大学院総合国際学研究科は、このような「人文学の知」の探究を前提に、世界諸地域の言語の運用能力を基礎とした、言語・文化・社会をめぐる個別のかつ総合的な研究の伝統を特色とする教育機関です。修士の学位（学術、文学、言語学、国際学の4分野）を授与する2年間の博士前期課程と博士の学位（学術）を授与する3年間の博士後期課程からなる2つの課程で構成されています。

本研究科は、1966年の設置以来、時代の変化に応じて刷新を図ってきました。2016年度には博士前期課程を、2018年度には博士後期課程を改編し、それぞれに「世界言語社会専攻」と「国際日本専攻」を設置しました。この結果、言語文化学部と国際社会学部が前者に、国際日本学部が後者と接続することで、学部と大学院のつながりを明確化しました。

世界言語社会専攻では、多様な問題に対して、俯瞰的な視点によって物事を捉える総合力と、コミュニケーションやコーディネーションの具体的な実践力を併せもった人材の養成を、国際日本専攻では、国内外の先進的研究者を招聘して、世界の中の日本を客観的な視座から理解し、世界に向けて日本を発信できる人材の養成を目指しています。

そして、2019年度には、西東京の国立三大学である東京農工大学、電気通信大学、本学が文系と理系の垣根を越えて手をつなぎ、全国でもユニークな「共同サステナビリティ研究専攻」を設置しました。この博士後期課程のみの専攻では、貧困、紛争、食料・資源、エネルギー・環境、情報・ICTなどの地球規模の課題の解決に貢献できる文理協働の博士人材の養成を目指します。

また、博士前期課程を修了したのち社会で活躍しようとする院生を支援するための「キャリア・プログラム」や「専門領域単位修得証明制度」を設けています。さらに、研究科の新たな飛躍を目指して、院生の研究活動を研究科全体で体系的に支える「学内学会」の構築や、国内外の高等教育機関との間で学生の移動を促進するための仕組み作りを進めています。

このように常に生まれ変わっていく本学大学院において、新たな視点による世界と日本についての理解を探究し、「総合国際学」をさらに深化させようとする私たちのチャレンジに、皆さんが熱意をもって参加してくださることを心より願っています。武蔵野の落ち着いた雰囲気が残るこの府中キャンパスで、充実した大学院生活を送ってください。

世界を学ぶ、日本を学ぶ 博士前期課程

世界言語社会専攻と国際日本専攻の
2つの専攻からなります。

世界言語社会専攻	1 言語文化コース	50人
	2 国際社会コース	40人
	3 Peace and Conflict Studies (PCS) コース	12人
国際日本専攻	国際日本コース	40人
	日本語教育リカレントコース	6人

人文社会科学諸分野を究める 博士後期課程

世界言語社会専攻と国際日本専攻、
共同サステナビリティ研究専攻の
3つの専攻からなります。

世界言語社会専攻	国際日本専攻	共同 サステナビリティ 研究専攻 2019年度新設
27人	10人	3人

東京外国語大学大学院総合国際学研究科は、世界諸地域の言語・文化・社会をめぐる個別的かつ総合的な研究を主体とする我が国でも有数の教育機関であり、これらの分野における国際的拠点としての使命を担っています。

従来から我が国と交流関係の深かったアジア地域、ヨーロッパ地域、アメリカ地域の言語・文化・社会に関する研究と教育では、百年を超す伝統を誇っています。その後、本学が研究・教育対象とする地域は拡大し、現在では、東南アジア、中東、東欧諸地域の言語・文化・社会の研究と教育も行うなど世界的な拠点となっています。また、日本研究および日本語教育の国際的拠点でもあります。このような背景をもつ本学大学院は、研究者を含む高度職業人の養成を目指しています。グローバル化が進行する現代社会では、真に貢献できる人材に対し、専門分野のより深い知識や高度な技能が求められています。本学大学院は、研究力に加え、総合力、実践力、そして世界で活躍するうえで必要な日本力を身につけ、世界や日本でグローバルに活躍することを目指す皆さんの挑戦を待っています。

将来につながる キャリア

大学院は専門的な研究の場であると同時に、修了後の皆さんを社会へとつないでいく場でもあります。専門分野での学術的な研鑽を活かすためにも、次のステップを意識した準備を進めましょう。大学院博士前期課程では、修了後のキャリア形成につながる複数のプログラムを用意しています。これらは、いずれの専攻、コースに所属していても履修することができます。一定の単位を満たした場合には、キャリア・プログラムごとに「プログラム修了証」が授与されます。大学院での学びを活かし、世界や日本のさまざまな現場で働く「夢」をもつ皆さんを、後押しします。

キャリア・プログラム

キャリアにつながる幅広い知識・技能の学修を目指したプログラム

Program

1

日本語教育実践プログラム

世界の各地や日本のさまざまな場所で、日本語をきちんと教えることができる人が必要とされています。だからこそ、「日本」を専攻する大学院生だけでなく、世界の「言語・文化・社会」を学ぶ大学院生の多くに履修してほしいのが、この日本語教育実践プログラムです。外国語としての日本語とその教え方について学び、短期の実習も行います。在学中および修了後に、国内外で日本語を教えるための基本的な知識と経験を獲得しましょう。

Program

2

多文化コーディネーター養成プログラム

多言語・多文化化する日本では、教育、行政、地域社会などの各分野で、文化や価値観の異なる人々との共存に向けてコーディネーションが行える人材が求められています。本プログラムは、日本社会の今を多面的に学び、多文化社会におけるコーディネーションに必要な知識を身につけるためのプログラムです。専門分野の研究にあたる一方で、プラスαの多文化コーディネーション力も身につけましょう。

専門領域単位修得証明制度

専門的なキャリアを目指したプログラム

博士前期課程の在学中に特定の領域に関して身につけた専門的な知識・技能を修了時に証明する仕組み「専門領域単位修得証明制度」を設けています。現在、右に示した領域について、この制度に基づく証明書の発行を行っています。この証明書によって修了生は学修の成果を具体的に示すことができるので、キャリア形成に役立てることができます。キャリア・プログラムが幅広い知識・技能の学修を目的としているのに対して、本制度ではより専門的な知識・技能の学修を前提としています。

Program

3

CEFRに準拠した新しい外国語教育プログラム

現在、世界の外国語教育は、学習者の習得レベルを示す国際標準規格である「ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages：通称CEFR）」に基づいた教授・学習・評価が中心になりつつあります。このCEFR準拠の外国語教育の理念や方法を理解し、各言語においてCEFR利用環境を整えることは、将来外国語を専門的に教えたい、外国語を活かして仕事をしたいという大学院生に有益なキャリア知識・技能となり、将来プロとして働く際の必要な素養の一つとなるでしょう。

Program

4

世界史教育プログラム

「世界史教育1」では、意欲の高い高校教員向けの世界史セミナーへの参加を中心に、歴史教育の深みと現状に触れます。また、「世界史教育2」では、歴史学方法の基礎と史料の読み方について実践的な教育を受けます。

Program

5

国際行政入門プログラム

将来、官公庁等で行政に携わろうとする大学院生に向けたプログラムで、行政に必要な政治学と経済学に関する基礎知識とその考え方を習得します。また、国家公務員採用総合職試験（院卒者試験・大卒程度試験）、外務省専門職員採用試験を中心に、公務員試験の専門試験（多肢選択式、記述式）に対応できる基礎的な知識を身につけ、実践的な解法を習得します。

本制度の対象となる領域と発行される証明書の名称は次のとおりです。

1

英語教育学

専門領域「英語教育学」単位修得証明書
(Specialization Certificate in Teaching English as a Foreign Language)

2

日英通訳翻訳実践

専門領域「日英通訳翻訳実践」単位修得証明書
(Specialization Certificate in Japanese-English Interpreting and Translation)

3

日本語教育学

専門領域「日本語教育学」単位修得証明書
(Specialization Certificate in Teaching Japanese to Speakers of Other Languages)

世界言語社会専攻

世界言語社会専攻では、世界諸地域の言語・文化・社会や国際社会を、複合的・総合的に捉える視点から研究し、地球社会化時代にふさわしい多言語グローバル人材を養成します。

言語文化コース

本コースでは、東京外国語大学における言語研究および文化研究の長い蓄積を活かし、世界諸地域の言語・文化に関する専門的教育研究を推進します。英語教育や実践的な通訳翻訳教育も、本コースに含まれます。言語研究の分野では、個別言語に関する文法論や形態論、意味論、語用論などのほか、一般言語学や社会言語学、対照言語学、音声学、言語情報学などを扱います。文化・文学の分野では、世界の諸言語で書かれたテキスト（詩、小説、哲学、思想など）に依拠した研究や、伝統文化や超域文化、古典文化を扱う研究が可能です。本コースでは、世界の言語現象や文化現象への理解を深め、複雑化する言語や文化の状況をより正確に把握し、対処する能力をもった人材を養成します。

国際社会コース

本コースでは、世界諸地域の社会ならびに国際社会に関する専門的教育研究を推進し、コーディネート力、コンフリクトへの耐性を備えた人材を養成します。キーワードは、ローカルとグローバルです。そして、求められているのはその2つの融合です。ローカルな地域研究はもはや存在しません。地域概念そのものがグローバル化によって再編成されているからです。一方、グローバルな国際関係論や政治学、経済学の研究もローカルな現実への理解なくしては、問題の真相に迫ることができません。本学の国際社会コースは、東京外国語大学における長年の地域研究の蓄積を活かし、グローバル化する現代社会を深く理解し、問題解決に資する人材を養成します。

Peace and Conflict Studies (PCS) コース (10月入学)

紛争を抱えた地域の諸大学とのネットワークを活用した紛争・平和構築に関する研究を推進し、国際社会で活躍し、平和構築に寄与する国際的リーダーを養成します。教育はすべて英語で行われます。

アジア・アフリカフィールドサイエンス・プログラム

世界言語社会専攻の複数のコースを横断するプログラムとして開設されています。「フィールドサイエンス」とは、臨地調査（フィールドワーク）を理論的・実践的に高度化した研究手法のことです。この手法を用いて、アジア・アフリカの諸地域に分け入る研究を指導します。

本プログラムは、専攻共通科目の「アジア・アフリカフィールドサイエンス基礎」「アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究」、言語文化コースの「アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究」、国際社会コースの「アジア・アフリカフィールドサイエンス地域研究」からなっており、本学のアジア・アフリカ言語文化研究所の教員が指導します。夏学期には、他大学の学生とともに学ぶ「中東☆イスラーム教育セミナー」が、本プログラムの一部として開催されます。



2018年度修士論文

コース	修士論文の題目	
言語文化コース	ユルスナールの三島論 —『三島あるいは空虚のヴィジョン』のテキスト分析を中心に—	現代フランス口語における4人称主語代名詞について
	実在する女性を主人公とする物語の視聴覚芸術化について —中国歴代の美女伝説を題材に—	Willingness to Communicate(WTC)のL1とスピーキングテストパフォーマンスのL2:日本人学習者の場合
	ダヤク社会における人と霊的存在の関係 —インドネシア共和国中カリマンタン州カプアス県の事例より—	ペルシア語の焦点小辞ham&ke
	トルコ語の補助動詞 -(y)Iver について	インドネシア語の接頭辞 ter- + 知覚動詞 “terlihat” について —機能の記述と認知的アプローチによる連続性の考察—
	未来標識Fixing Toの研究	『カシナ』における暴力性と喜劇性
	複数の意味で用いられるロシア語の単数名詞について	フランス語の法助動詞 devoir に関する一考察 —直説法 vs. 条件法、及びその否定形について—
	ブラジル近代主義小説『マクナイーマ』とパロディ	日本語と中国語におけるアスペクト表現の文法化 —空間・時間の認知的視点から—
	中国語受動文における介詞“被”の目的語の省略について	コーパス分析による日本語複合動詞「～こむ」の用法と習得
	中国語アスペクト助詞 <了>の誤用:中国語学習者コーパスにおける日本語・英語母語話者による第二言語習得の対照研究	ハスゴビ著「飛馬伝説」翻訳研究
	ブラジル映画『エリート・スクワッド』に描かれる警察の複数の顔	インドネシア語における「約束」の言語行為 —ロールプレイを用いた対人談話のデータから—
	『専門家が答える 放射線 暮らしのQ&A』日英翻訳	ロシア現代文学における指小語の機能および日本語訳の可能性
	Over-Vの形式と意味に関する認知言語学的研究	インドネシア語における感謝表明のストラテジーに関する考察
	ロシア・ロマン主義におけるルサルカガの形象	ミャンマー人および日本人英語学習者によく見られる統語レベルのエラーの研究
	奄美諸島の島伊仙方言の文法概説	ベトナム語からみた日本語のアスペクト複合動詞
	共通チェコ語の二重母音 ej の他地域方言への拡大	ポルトガルにおけるジャポニスム —ポルダロ・ビニエロの芸術作品を通して—
	日本人英語学習者の /l/ と /r/ の知覚と産出: スピーチラーニングモデルの仮説7との関連において	長崎県五島列島宇久島野方言の文法概説
	現代カザフの治療師にみられるシャマニズム再活性化現象に関する一考察 —「カザフスタン民間治療師協会」の活動に焦点を当てて—	中国語の「動量連語+名詞」構造について
	Webローカリゼーションの現状と諸問題 —企業サイトの法律関連ページを題材に—	中国語版プロジェクト型外国語教育の可能性と限界 —アルファベットの導入をベースにして—
	ブラジル伝統芸能サンバ・ジ・ホーダ —無形文化遺産としての保護活動の現状と課題—	『三言』における女性像と愛情観について
	評価に対する認識が英語学習に与える影響:動機づけと学習方略に着目して	学習者コーパスにおけるコロケーション使用とその難易度を決定する要因に関する コーパス駆動型研究
	日本人英語学習者の基本動詞 HAVE の用法の発達	尹東柱の詩における故郷 —地理、民族、理想の視点から考察する—
	西フリジ語における完了形の助動詞 hawwe/wêze の選択に関する研究	★日英翻訳 東京大空襲・戦災資料センター展示証言映像シリーズ:「隅田公園で起きたこと」、「青山で空襲があった一街角の書店から」、「和代の手紙—大島二丁目の家族へ」、「ヒロシがいた橋」
	中国語助動詞“会”の誤用から見る中国語・日本語の未実現表現 —中国語・日本語学習者コーパスに基づいた対照研究—	日英翻訳『事典 和菓子の世界』第一部
	日本映画「君の名は」における英語字幕と吹き替えの比較考察	日本の文法指導における認知比較の導入 —現在完了形と過去形の意味と使用に焦点を当てて—
コース	修士論文の題目	
国際社会コース	ミャンマーの“Non-Formal Primary Education”の現状と課題	パキスタンにおける理想的政治家像
	式典に見るフランス・ヨーゼフ —1908年即位60周年記念祝賀行事を中心に—	パレスチナ・ガザ地区への占領法の適用可能性 —機能的アプローチを用いた評価—
	パキスタン地域社会と女性への暴力 —「名誉殺人」と新法の検討を中心に—	留学の量的拡大と留学生の意識に関する研究 —予備校を利用した中国入学生生の語りを中心に—
	トルコ都市部におけるアレヴィーの若者の信仰形成に関する人類学的研究	欧州共通庇護政策の補完的保護枠組みが抱える課題と展望
	ウズベク演劇の一考察 —マイサラはなぜ国民的英雄となったのか—	タジク民族の創成 言語と歴史の議論から
	EU域内における移民・難民割当て制 —欧州共通移民政策の改革—	国連憲章体制における集団的自衛権 —対立関係か、補完関係か—
	都市貧困世帯の世帯内資源配分に関する研究 バンガラデシュ都市スラムにおける女性の家計行動の事例から	武力紛争法の現在 —サイバー攻撃を通じた検討—
	近世日本における北東アジア認識 —明清交替期の難題漂流を中心として—	『孤独な群衆』 —個人と組織に関する考察—
	レジーム論的観点から見たEUの環境規制における履行確保	日本の大学院の修士課程における中国人留学生の学習適応問題
	トルコ社会における朝鮮戦争の痕跡	藤田省三の全体主義議論 —経験の消失—
	ストリートユースのエスノグラフィ —メキシコシティ・モレロス地区に集まる路上生活者の若者—	中国の大学における単位制度改革の課題に関する研究 —南昌大学を事例として—
	トルコの民族主義から見る中土関係 —トルコに影響する「三つの力」と新疆問題を中心に—	金石範文学における「4・3事件」と「民族」 —金石範の作品を中心に—
	戦時下の植民地朝鮮／解放後の韓国における女子勤労挺身隊動員と戦後補償裁判 —三菱重工を中心に—	1930年代のソ連における強制移住 —外交関係が民族政策に及ぼした影響—
	フェッキングーゼン家とハンザの盛衰 —大商人ヒルデブラントの書簡が結ぶ交易ネットワーク—	21世紀における日本の安全保障政策と日露関係の展望
	ヤンゴンのスクォーターにおける住民自治組織形成運動の展開 災害被災者の移動の事例から	エジプトに対する日本の開発援助がはらんでいる問題 —大エジプト博物館プロジェクトを事例として—
	パキスタンにルーツを持つ児童の教育の現状 —教育制度と学校文化に焦点を当てて—	都市近郊に生きる精霊信仰:ラオスの祠祭祀の形態を起点に
	形質人類学と想像される身体	ウズベキスタンの多言語教育政策に関する一考察 —大統領令PQ-1875に焦点を当てて—
	海を渡った被曝者	近代日本におけるモンゴル認識 —美術・音楽を素材に—
	<暗黙の次元>に根差す自由主義社会: マイケル・ボランニーの反全体主義思想の検討から	中国における生涯学習に対する民間教育訓練産業の役割 —福建省福州市の語学教育訓練機構を中心に—
	紙吹雪としての詩 —北アイルランド詩人キアランカーソン Belfast Confetti研究—	
コース	修士論文の題目	
Peace and Conflict Studies (PCS) コース	The Role of Dams in Identity and Hydro Politics : A Constructivist Analysis on Water Disputes between Egypt and Ethiopia	Muslim Mindanao and Marcos's Regime : A Center-Periphery Approach
	A Historical Legal Analysis of Japanese Nationalism through the Meiji Constitution, Its Debates and Policy Making	From Reunification to Mobilization : A Case Study on Localism and Identity Politics in Hong Kong since 1997
	The Dilemma of Quebec Sovereignty Movement : To Seek or Not to Seek Independence	The Analysis of the International and Regional Humanitarian Assistance in Post-Conflict Reconstruction of Afghanistan
	Rehabilitation and Reintegration Process of EX-LTTE Combatants in Sri Lanka	Foreign Policy and Relational Identity : Contested History between Japan and South Korea

国際日本専攻

国際日本専攻では、世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の中の日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な視座をもつ人材を養成します。

国際日本コース

世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の多様な文化・社会の中での日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な視座をもつ人材を養成します。研究領域としては、「日本語学研究」「日本語教育学研究」「日本語文学・文化研究」「日本社会研究」の4つで構成されます。しかしそれぞれが分立するのではなく、接近する形で研究・教育を行っています。4つの領域をまたがる形で研究することで、全体として日本への理解を深めることができます。

日本語教育リカレントコース（1年コース・10月入学）

日本語教育リカレントコースは、国内外で働く現職の日本語教育者を対象にしたコースです。本学で1年間、勉学・研究に専念して学位（修士号）を取得し、その後、所属機関に戻り、日本語教育の発展に貢献する道を歩む方が、募集の対象となります。応募資格は、①3年以上の日本語教育歴をもつこと、②日本語が母語でない方については、日本語能力試験N2以上を取得していること、などです。2018年10月に入学した第三期生は、タイ、マレーシア、スリランカ、ベトナムで日本語教育に従事している方々が合格し、それぞれの研究課題に取り組んでいます。

2018年度修士論文

コース	修士論文の題目
国際日本コース	日本語表記の多様性 ―並列表記（振り仮名）による表現性を中心に―
	日本語条件文の習得について ―英語母語話者の「たら」を中心に―
	ヘノ格についての一考察
	日本語におけるノダ文及び対応する中国語表現について
	日中同形の二字漢語における品詞の相違に関する考察
	―中国語の形容詞と同形である日本語のサ変動詞の語構成的・意味的特徴を中心に―
	接触場面における終助詞「ね」「よ」「よね」の使用状況―機能分析を中心に―
	ウズベク人日本語学習者の「はめ」への応答とそれに対する日本語母語話者の評価
	格助詞と接続助詞の連続性 ―「のが」を中心に―
	トルクメン語と日本語の受身文に関する対照研究 ―実例調査をもとに―
	日本語とウズベク語の受身文の対照研究
	言語聴覚療法を用いた日本語音声指導の実践
	日本語の口頭発表におけるフィラーに対する評価
	日タイ接触場面の日本語会話における言いさし発話の分析
	英語を母語とする上級日本語学習者による助数詞「本」の習得
	留学生にとっての「居場所」とは ―国費外国人留学生へのインタビュー調査から―
	語彙のネットワークから見たポーランド人日本語学習者の語彙学習
	ヒンディー語を母語とする日本語学習者の産出行為（発音とディクテーション）
	トランス・ランゲージング・スペースを活用したネパール人高校生の日本語作文の教育活動についての考察
	中国人日本語学習者における「そうだ」「ようだ」「らしい」の習得状況について ―アンケート調査の結果を通して―
	中国の地方における日本語学習者のネット利用状況と学習サイトの現状調査 ―二つの大学日本語学習者を比べて―
	中国における日本語学習者の動機づけの変化とその要因 ―自己決定理論の視点から―
	コミュニケーション能力を向上させるための教室活動の検証 ―学習者の内省活動に基づいて―
	Skypeを通して行った遠隔教育におけるドリフ調査 ―台湾の大学生を対象に―
	日中接触場面の日本語会話における「聞き返し」の研究 ―ディスコース・ボラリティ理論の観点から―
	学習者は教師からの作文フィードバックをどう活用するか ―中国人中級日本語学習者への考察を中心に―
	中国人日本語学習者のあいづちの使用実態の研究 ―日本語母語話者の評価から―
	中国語を母語とする日本語学習者の助数詞習得に関する研究 ―「つ」「個」のとらえ方を中心に―
	ロシア人日本語学習者によるアイロニーの使用とそれに対する日本人の評価
	平安時代日本詩歌における植物表現の比較文学的研究 ―いわゆる四君子の表現を中心に―
	村上春樹作品における「やれやれ」の変遷
	村上文学における神話的着想と象徴性
	源氏物語論 ―和漢比較文学的な視野による女君の死と子孫への継承の考察―
	漱石の『こころ』とドストエフスキーの『白痴』における愛のかたち
	『雲玉和歌抄』とその時代
	石田梅岩『都鄙問答』における<心>と儒教的「コスモス」
	内村鑑三における「義」―日清戦争から日露戦争期を中心に―
	三越百貨店の「学俗協同」の考察
	EPAに基づくインドネシア人看護師国家試験合格者の現状 ―日本に長期滞在しない理由―
	日本とインドの企業における就業経験比較と将来構想 ―在日インド人会社員のナラティブ・データから―
日本語教育リカレントコース	マレーシア人日本語学習者の漢字学習ストラテジー使用調査結果に基づく漢字クラス編成および効果的な指導案 ―クラスター分析の手法を用いて―
	日本語学習者の作文における接続助詞「し」の使用に関する一考察
	―[J.Bridge for Beginners]を使用して学習した初級レベル学習者の場合―
	西インドで学ぶ日本語学習者の文章理解の実態に関する考察 ―意味段落と階層構造に着目して―
	初級日本語学習者における語彙マップを利用した語彙学習活動 ―泰田工業大学のサマーコース日本語非専攻の学習者を対象に―
	プレゼンテーション用ソフトウェアを用いた語彙導入教材の開発
	―マラヤ大学予備教育部日本留学特別コースにおける効果的な語彙指導のために―

総合国際学研究科	[研究科共通科目]	総合国際学研究基礎／異分野交流ゼミ／多文化コーディネーション研究／言語教育基礎／日本語教育基礎／日本語教育実習研究／世界史教育／国際行政入門／短期海外留学
世界言語社会専攻	[専攻共通科目]	学術英語演習／学術日本語演習／学術ドイツ語演習／学術フランス語演習／学術イタリア語演習／学術スペイン語演習／学術ポルトガル語演習／学術ロシア語演習／学術ポーランド語演習／学術チェコ語演習／学術中国語演習／学術朝鮮語演習／学術モンゴル語演習／学術インドネシア語演習／学術マレーシア語演習／学術フィリピン語演習／学術タイ語演習／学術ラオス語演習／学術ベトナム語演習／学術カンボジア語演習／学術ビルマ語演習／学術ヒンディー語演習／学術ウルドゥー語演習／学術ベンガル語演習／学術アラビア語演習／学術ペルシア語演習／学術トルコ語演習／アジア・アフリカフィールドサイエンス基礎／アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究／修士論文修士研究ゼミ
	言語文化コース	英語学・英語教育学研究／ヨーロッパ・アメリカ言語研究／アジア・アフリカ言語研究／言語学研究／音声学研究／言語情報学研究／認知科学研究／通訳翻訳実践研究／ヨーロッパ・アメリカ文学・文化研究／アジア・アフリカ文学・文化研究／古典文学・文化研究／人間文化研究／アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究
	国際社会コース	ヨーロッパ・アメリカ地域研究／アジア・アフリカ・オセアニア地域研究／現代世界論研究／国際関係研究／アジア・アフリカフィールドサイエンス地域研究
	Peace and Conflict Studies (PCS) コース	Foundation for Peacebuilding／Applied Peacebuilding／Conflict and Social Change／PCS Research Methodology／International Relations and Cooperation
国際日本専攻	[専攻共通科目]	日本語学研究／対照日本語研究／日本語教育学研究／日本語教育実践研究／日本語文学・文化研究／日本比較文学・文化研究／日本社会研究／国際文化交流研究／Japan Studies／発信英語演習／発信日本語演習／修士論文修士研究ゼミ

本学の特色を生かした科目

■ 総合国際学研究基礎

研究を遂行する 基礎力を身につける

大学院生としてスタートを切る1年次春学期に、研究に必要なリサーチ力、プレゼンテーション力、ディベート力などを身につけ、研究基礎力を養うための授業です。リサーチデザイン、統計手法などに関する講義を受けると同時に、日本語や英語で研究計画をプレゼンテーションする機会も設けます。〈2単位必修〉

■ 異分野交流ゼミ

分野や地域の枠を超えた 活発な議論の輪

大学院生が数人単位でグループを形成し、分野や対象地域を超えた異分野交流を行うゼミです。異なる広がりをもつテーマを扱う学生が集まり、議論の中で自身の研究の足がかりを得ることを目的とします。テーマに関わる教員を「招待」し、そのコメントを活用することもスリリングで有用でしょう。〈2単位必修〉

■ 学術表現演習

論文を読む プレゼンをする

次の言語で行われます。英語、日本語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ポーランド語、チェコ語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語、タイ語、ラオス語、ベトナム語、カンボジア語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、ベンガル語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語

■ 専門科目群

専攻・コースに応じた 多様で専門的な授業群

大学院での学びの中核となるのは専門科目の履修です。主任指導教員や副指導教員の授業、また関連する分野の教員の授業を履修します。そこでの指導に沿って修士研究を進めます。2年次には、「修士論文修士研究ゼミ」を履修し、修士論文を作成します。

■ 短期海外留学

Joint Education Programによる 短期海外留学

本学では、春学期（4月～7月初旬）、夏学期（7月中旬～9月）、秋学期（10月～1月中旬）、冬学期（1月下旬～3月）からなるTUFUSクォーター制を採用しています。海外で長期にわたる調査・研究が可能となるように、夏学期と冬学期には必修科目を置いていません。また、夏学期や冬学期を中心に海外協定校と「Joint Education Program」を行っており、海外協定校の教員のもとで指導を受ける、資料収集や現地調査を行うなど、多様な短期海外留学の機会があります。海外大学のサマーコースに参加する選択肢も豊富です。春に説明会を行うなど、留学支援体制も充実しています。

世界言語社会専攻

世界を複合的・総合的に捉える

世界言語社会専攻では、世界諸地域の言語・文化・社会を複合的・総合的に捉える視点から教育・研究を行います。専門的知識や研究能力をもちつつ、一方で総合的で柔軟な対応力をもって多面的な課題に取り組むことができる人材を養成し、社会に送り出します。本専攻には、開設科目の体系を明示するため、4つの教育プログラムを置きます。学生は、主任指導教員が指導する分野のプログラムを選択し、所属プログラム内で体系的に履修するとともに、領域横断的な視座を獲得するため、他のプログラムで開講する隣接分野の科目を幅広く履修することが可能です。本専攻で授与される学位は博士（学術）です。

言語文化研究プログラム

世界諸地域の言語や文化を個別あるいは対照的に研究対象とするとともに、複言語・複文化の視点を重視し、領域横断的な研究に取り組みます。

国際社会研究プログラム

世界諸地域の具体的な歴史や社会、文化を分析し、国際社会の問題に取り組むための地域横断的な研究を行います。

アジア・アフリカフィールド研究プログラム

アジア・アフリカを対象に、フィールドワーク手法を特色・強みとする言語学研究、人類学研究、地域研究分野の研究者を養成するプログラムです。

Peace and Conflict Studiesプログラム（10月入学）

主に紛争当時国などからの留学生を受け入れ、国際社会で活躍し、平和構築に寄与する国際的リーダーを養成します。教育は英語で行われます。

【養成する人材像】

- ◎ 世界諸地域の言語の高度な運用能力をもち、その文化・社会に対する的確な知識・知見を身につけ、現代社会における諸課題を複合的・総合的に捉えることのできる人材
- ◎ 言語研究、文学・文化研究、地域研究、国際関係研究、紛争・平和構築研究（Peace and Conflict Studies）等の領域における高度な専門知識を身につけた人材
- ◎ 国内外の大学における研究者、国際機関等の専門職として活躍する高度職業人

2018年度博士論文

ブルガリア語ブラネシュティ方言における補語の接語重複
—言語接触と文法化—

The Effects of Corpus Use on Error Correction and
Error Identification in L2 Writing
コーパス使用がL2ライティングにおける誤り修正と誤り特定に及ぼす効果

思考と芸術のディレクタント
—アルベルト・サヴィーニオの形而上芸術—

派生接辞を用いたロシア語の効率的な語彙学習法の検討
—コーパスが提示する頻度データの言語学的な分析に基づいて—

絵画における普遍性の探究
北脇昇と日本のシュルレアリスム

日本語母語話者によるL2ロシア語の無声舌頂阻害音の産出と知覚

スペイン語-dor/-nte接辞に関する意味論的研究

言語の不可算性から見る言語学と言語政策
—ポーランドのマイノリティ言語を事例として—

中学校段階における英語の後置修飾による名詞句の習得に関する研究
—タスク型の言語活動による名詞句の構造理解の促進—

現代ビルマ語における指示詞の研究
—現場指示、文脈参照現場指示、文脈指示をめぐって—

中部ジャワ時代の社会と王
—9世紀から10世紀初めの古ジャワ語刻文からの考察—

韓国人留学生のキャリア形成における役割意識の変容
—ライフ・スパン／ライフ・スペース理論的アプローチの枠組みから—

現代中国における公共サービスの民間委託
—「包」（請負）の機能に着目して—

近世中後期における大名権力の研究

〈平和都市〉広島をめぐる空間論的研究

金史良の二言語文学研究—植民地期の朝鮮語／日本語による創作を中心に

名詞の内容補充表現 —日本語とドイツ語の対照研究—

青海省成立の経緯とその意味 —「チベット」の分断と「中国化」への変遷を中心に—

親族語を中心としたウズベク語の呼称について —日本語との対照的観点から—

国際日本専攻

国際的な視座で「日本」を研究する

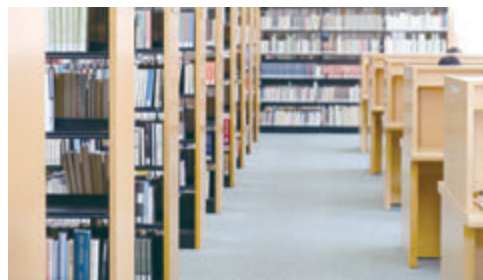
国際日本専攻では、国際的な視座から「日本」を研究するため、総合的な日本研究の視野を涵養しつつ、日本語研究、日本語教育研究、日本語文学・文化研究、日本歴史社会研究等の専門分野に応じた体系的な研究指導を行います。昨今の国際情勢の中で、「世界の中の日本」を客観的に理解したうえで、世界に向け日本を発信することができる人材の育成が急務となっていることから、本専攻は、こうしたニーズに応える日本人・留学生を社会に送り出します。本専攻で授与される学位は博士（学術）です。

国際日本研究プログラム

日本に関する分野の専門知識を備えると同時に、広く日本を俯瞰し、世界の中での日本を論じることのできる能力を身につけます。

【養成する人材像】

- ◎ 日本に関する分野の専門知識を備えると同時に、広く日本を俯瞰し、世界の中での日本を論じることのできる能力を身につけた人材。特に、留学生の場合は、研究遂行に必要な高度な日本語力と、日本社会への理解を備えた人材
- ◎ 日本語研究、日本語教育研究、日本語文学・文化研究、日本歴史社会研究、日本政治経済研究などの分野についての深い専門知識を身につけた人材
- ◎ 国内外の大学における研究者および当該分野の専門知識をもった高度職業人。海外の高等教育機関等で活躍する日本語教育者



2018年度博士論文

現代日本語の名詞述語文に関する一研究
 〈「形容詞＋名詞」述語文〉の意味・機能

日本語教育における授業外多読活動の縦断的事例研究
 —学習者オートノミーの観点からの考察を基に—

日本における天竺認識の歴史的考察

日本語学校生の学習動機および自己形成の時間的変遷
 —「期待価値理論」を援用して—

Japanese War Memories and Sino-Japanese Relations from
 1972 to 2017: Textbooks, Museums and The Debates over
 History

Corpus Pragmatics: Exploring Criterial Pragmalinguistic Features
 of Requestive Speech Acts Produced by Japanese Learners of
 English at Different Proficiency Levels

共同サステイナビリティ研究専攻

イノベーションを生み出す

共同サステイナビリティ研究専攻は、東京農工大学、電気通信大学、そして本学の三大学が共同で設置する複合新領域の研究専攻です。（2019年4月新設）

本共同専攻は、今日人類が直面するグローバルな課題—とりわけ開発、環境、平和に関わる問題—の解決に向けて取り組むことがサステイナビリティ（持続可能性）研究の使命と意義であるとの考えに基づいて2019年度から設立された、博士後期課程教育研究プログラムです。

「持続可能な開発（Sustainable Development）」という用語は、もともと「環境と開発に関する世界委員会」（ブルントラント委員会）が1987年に刊行した報告書によって世界的に広がったもので、そこでは環境問題が強く意識されていました。従来のサステイナビリティ研究においても、やはりその中心に環境問題が据えられていました。

一方、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では2016年から2030年までの国際目標「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が掲げられ、環境問題にとどまらず、貧困、保健・衛生、教育、ガバナンス、平和など、開発に関わる幅広い問題がその対象とされています。本共同専攻もこのSDGsと同じく、幅広い射程から「サステイナビリティ」を捉えます。

本共同専攻では、国連によって理念として示されたこうしたSDGsを、三大学の強み—「言語・リベラルアーツ及び地域研究の教育研究力」（東外大）、「食料、エネルギー、ライフサイエンス分野の教育研究力」（農工大）、「情報・通信（ICT）、人工知能・ロボティクス、光工学分野の教育研究力」（電通大）—を活かした文理協働の観点から現実的な課題として焦点化し、実践的な解決を目指す研究に取り組みます。

特色

- ◎ これまでの三大学によるさまざまな連携事業の実施をもとに人材養成を展開
- ◎ 文理各分野における卓越・ユニークな単科大学の協働により、国内外で活躍する強い人材を養成
- ◎ 西東京エリアの近接地における実質的・効果的な教育の展開
- ◎ 複合新領域の研究の推進

入学定員

東京外国語大学（総合国際学研究科） 3人

東京農工大学（工学府） 4人

電気通信大学（情報理工学研究科） 4人

学位

Doctor of Philosophy 博士（学術）

養成する人材像

自身の専門性に軸足を置き、その専門的な観点からSDGsの課題を捉えつつ、他分野の研究成果を取り入れることによってイノベーションを生み出すことができる学際的、越境的な実務人材の育成

具体的な能力・学識

- ◎ 普遍的かつ実践的学識を基盤とする国際感覚と倫理観（国際的センス）
- ◎ 国際社会の現場で広範に適用できる実践的な基礎理論と技法（スキル）
- ◎ 政治・経済、食料・生命、エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康等の領域における高度で専門的な知見と研究力
- ◎ 異文化・異分野の背景や価値観を理解し、多様な見解を調整できる適用力と調整できる合意形成力
- ◎ 国際通用性のある倫理的思考力と機能的伝達能力（コミュニケーション力）

博士前期課程教員一覧

(A)：アジア・アフリカ言語文化研究所所属教員 (※)は主任指導教員になることができない教員
教員一覧の内容は2019年度当初の情報をもとに作成したものです。教員の異動等により、今後、変更の可能性があることをご了承ください。

世界言語社会専攻

言語文化コース

教員名	専門分野
青山 亨	東南アジア宗教学
秋廣 尚恵	フランス語学
荒原 邦博	フランス文学、文化史
栗屋 利江	南アジア近代史
五十嵐 孔一	朝鮮語学
市川 雅教	統計学
上田 広美	カンボジア語学
浦田 和幸	英語学
大谷 直輝	英語学、認知言語学
岡田 知子	カンボジア文学
岡野 賢二	ビルマ語学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語
加藤 晴子	中国語学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化
金指 久美子	スラブ語学
川上 茂信	スペイン語学
川口 裕司	フランス語学
久野 量一	ラテンアメリカ文学
黒澤 直俊	ポルトガル語学
小久保 真理江 (※)	芸術文化
斎藤 弘子	英語音声学
逆井 聡人 (※)	比較文学 (近現代東アジア)
佐々木 あや乃	ベルシア古典文学
佐野 洋	情報工学
塩原 朝子 (A)	インドネシア諸言語の記述研究
品川 大輔 (A)	記述言語学

周 育佳 (※)	言語教育学、英語教育学
菅原 睦	チュルク語
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学
鈴木 玲子	ラオス語学
武田 千香	ブラジル文学
田島 充士	教育心理学
趙 義成	朝鮮語学
ティップ・ティエンボン・コースィット (※)	タイ文化・文学
投野 由紀夫	コーバス言語学
土佐 桂子	東南アジア人類学
内藤 稔	コミュニティ通訳研究
中川 裕	音声学・音韻論
南 潤珍	朝鮮語学
成田 節	ドイツ語学
西岡 あかね	ドイツ文学
西畑 香里 (※)	通訳翻訳学
丹羽 京子	ベンガル文学
沼野 恭子	ロシア文学
根岸 雅史	英語教育学
野平 宗弘	ベトナム文学
野元 裕樹	言語学、マレー語学
萩田 博	ウルドゥー語学・文学
橋本 雄一	中国近現代文学
匹田 剛	ロシア語学
藤縄 康弘	ドイツ語学
降幡 正志	インドネシア語学
ボルロンガン・アリアン・マカリンガ (※)	社会言語学
前田 和泉	現代ロシア文学
益子 幸江	音声学

真鍋 求	神経生理学
萬宮 (小牧) 健策	ウルドゥー語
丸山 空大 (※)	宗教学、近代ユダヤ思想
水野 善文	インド思想
峰岸 真琴	オーストラリア諸語
箕浦 信勝	言語学、手話諸言語
三宅 登之	現代中国語
三代川 寛子 (※)	エジプト近代史
望月 圭子	対照言語学
望月 源	自然言語処理
森田 耕司	スラヴ言語学
八木 久美子	宗教学、イスラム思想
山口 裕之	ドイツ文化・思想
山越 康裕 (A)	モンゴル諸語
山本 真司	イタリア語学
吉枝 聡子	イラン諸語研究
吉富 朝子	第二言語習得
吉本 秀之	科学技術史

国際社会コース

教員名	専門分野
青木 雅浩	モンゴル近現代史
青山 弘之	現代東アラブ政治
飯塚 正人 (A)	中東地域研究
伊東 剛史	イギリス近代史
今井 昭夫	ベトナム近現代史
岩崎 稔	哲学 / 政治思想
上原 こずえ (※)	社会学、沖縄現代史、社会運動史
内山 直子 (※)	開発経済学、ラテンアメリカ地域研究

大石 高典 (※)	アフリカ地域研究
大川 正彦	現代政治理論
小笠原 欣幸	台湾政治
岡田 昭人	比較・国際教育学
小川 英文	東南アジア考古学
小田原 琳	イタリア史
小野寺 拓也 (※)	ドイツ近現代史
加藤 美帆	教育社会学
蒲生 慶一	国際経済学
河合 香史 (A)	東アフリカ牧畜民研究
菊池 陽子	ラオス近現代史
金 富子	ジェンダー論
木村 曉 (※)	中央アジア史
日下部 尚徳 (※)	パングラデシュ現代社会論
久米 順子	西洋美術史
倉田 明子	中国近代史
栗原 浩英 (A)	ベトナム現代史
近藤 信彰 (A)	イラン近代史
坂井 真紀子	アフリカ開発社会学
澤田 ゆかり	現代中国研究
篠原 琢	中東欧近代史
島田 志津夫 (※)	中央アジア地域研究
鈴木 美弥子	民法
鈴木 義一	現代ロシア研究
芹生 尚子	フランス社会史 (近世・近代)
左右田 直規	マレーシア政治社会史
高橋 均	ラテンアメリカ史
武内 進一	アフリカ研究、国際関係論
田島 陽一	国際経済学

異 由樹子	ロシア近現代史
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史
出町 一恵 (※)	国際経済論
床呂 郁哉 (A)	東南アジア人類学
中山 智香子	経済思想・社会思想
中山 裕美 (※)	国際関係論
丹羽 泉	朝鮮宗教学
萩尾 生	バスク地域研究 / 言語社会学
福岡 千穂	近世ポーランド・リトアニア史
藤井 毅	インド近現代史
真島 一郎	文化人類学
松隈 潤	国際法
宮田 敏之	タイ経済研究
山内 由理子	オセアニア地域研究
吉田 ゆり子	日本近世史
米谷 匡史	日本思想史
李 孝徳	教育工学、平和学
若松 邦弘	比較政治

Peace and Conflict Studies コース

教員名	専門分野
伊勢崎 賢治	平和構築
篠田 英朗	平和構築
福田 彩 (※)	教育工学、平和学
松永 泰行	政治学、国際関係論

国際日本専攻

教員名	専門分野
阿部 新	日本語教育学
荒川 洋平	認知言語学
石澤 徹 (※)	日本語教育学
伊集院 郁子	日本語教育学

伊東 克洋 (※)	日本語教育学
イリス・ハウカンパ (※)	日本映画史、映画研究
海野 多枝	言語教育学
大津 友美	日本語教育学
川村 大	日本語学
木村 正美 (※)	日本語学、日本国際関係・外交

楠本 徹也	日本語学
工藤 嘉名子	日本語教育学
小松 由美	異文化間コミュニケーション
佐藤 正広	日本近代史
柴田 勝二	日本近代文学
菅長 理恵	日本語学、日本文学
鈴木 智美	日本語教育学
鈴木 美加	日本語教育学
伊達 宏子 (※)	日本語教育学

谷口 龍子	語用論、日本語教育学
友常 勉	日本思想史
中井 陽子	日本語教育学
中村 彰	日英統語論
花園 悟	日本語学
春名 展生	日本史、日本政治
フィリップ・シートン	現代日本研究
藤村 知子	日本語教育学

ボーター・ジョン (※)	日本史
村尾 誠一	日本古典文学
饒 隆博	数学
幸松 英恵 (※)	日本語学
林 俊成	言語教育学

博士後期課程教員一覧

世界言語社会専攻

言語文化研究プログラム

教員名	専門分野
青山 亨	東南アジア宗教学
秋廣 尚恵	フランス語学
荒原 邦博	フランス文学、文化史
栗屋 利江	南アジア近代史
五十嵐 孔一	朝鮮語学
上田 広美	カンボジア語学
浦田 和幸	英語学
大谷 直輝	英語学、認知言語学
岡田 知子	カンボジア文学
岡野 賢二	ビルマ語学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語
加藤 晴子	中国語学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化
金指 久美子	スラブ語学
川上 茂信	スペイン語学
川口 裕司	フランス語学
久野 量一	ラテンアメリカ文学
黒澤 直俊	ポルトガル語学
斎藤 弘子	英語音声学
佐々木 あや乃	ベルシア古典文学
佐野 洋	情報工学
菅原 睦	チュルク語
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学
鈴木 玲子	ラオス語学
武田 千香	ブラジル文学

田島 充士	教育心理学
趙 義成	朝鮮語学
投野 由紀夫	コーバス言語学
土佐 桂子	東南アジア人類学
内藤 稔	コミュニティ通訳研究
中川 裕	音声学・音韻論
南 潤珍	朝鮮語学
成田 節	ドイツ語学
西岡 あかね	ドイツ文学
丹羽 京子	ベンガル文学
沼野 恭子	ロシア文学
根岸 雅史	英語教育学
野平 宗弘	ベトナム文学
野元 裕樹	言語学、マレー語学
橋本 雄一	中国近現代文学
匹田 剛	ロシア語学
藤縄 康弘	ドイツ語学
降幡 正志	インドネシア語学
前田 和泉	現代ロシア文学
益子 幸江	音声学
萬宮 (小牧) 健策	ウルドゥー語
水野 善文	インド思想
箕浦 信勝	言語学・手話諸言語・アパズカ語
三宅 登之	現代中国語
望月 圭子	対照言語学
望月 源	自然言語処理
森田 耕司	スラヴ言語学
八木 久美子	宗教学、イスラム思想
山口 裕之	ドイツ文化・思想

吉枝 聡子	イラン諸語研究
吉富 朝子	第二言語習得
吉本 秀之	科学技術史

国際社会研究プログラム

教員名	専門分野
青木 雅浩	モンゴル近現代史
青山 弘之	現代東アラブ政治
伊東 剛史	イギリス近代史
今井 昭夫	ベトナム近現代史
岩崎 稔	哲学、政治思想
大川 正彦	現代政治理論
小笠原 欣幸	台湾政治
岡田 昭人	比較・国際教育学
小川 英文	東南アジア考古学
小田原 琳	イタリア史
加藤 美帆	教育社会学
菊池 陽子	ラオス近現代史
金 富子	ジェンダー論
久米 順子	西洋美術史
倉田 明子	中国近代史
坂井 真紀子	アフリカ開発社会学
澤田 ゆかり	現代中国研究
篠原 琢	中東欧近代史
鈴木 美弥子	民法
鈴木 義一	現代ロシア研究
芹生 尚子	フランス社会史 (近世・近代)
左右田 直規	マレーシア政治社会史
高橋 均	ラテンアメリカ史

田島 陽一	国際経済学
異 由樹子	ロシア近現代史
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史
丹羽 泉	朝鮮宗教学
福岡 千穂	近世ポーランド・リトアニア史
藤井 毅	インド近現代史
真島 一郎	文化人類学
松隈 潤	国際法
宮田 敏之	タイ経済研究
山内 由理子	オセアニア地域研究
吉田 ゆり子	日本近世史
米谷 匡史	日本思想史
若松 邦弘	比較政治

アジア・アフリカフィールド研究プログラム

教員名	専門分野
荒川 慎太郎	西夏語学
石川 博樹	アフリカ史
伊藤 智ゆき	音韻論
太田 信宏	インドの歴史
小田 淳一	計量文献学
刈谷 康太	西アフリカ・イスラム地域研究
河合 香史	東アフリカ牧畜民研究
栗原 浩英	ベトナム現代史
呉人 徳司	言語学
黒木 英充	東アラブ近・現代史
児倉 徳和	記述言語学、シベ語

近藤 信彰	イラン近代史
澤田 英夫	ビルマ系多言語
椎野 若菜	東アフリカ民族誌学
塩原 朝子	インドネシア諸言語の記述研究
品川 大輔	記述言語学
高松 洋一	古文書学、オスマン朝史
外川 昌彦	南アジアの人類学
床呂 郁哉	東南アジア人類学
中山 俊秀	北米先住民諸言語
西井 涼子	東南アジア人類学
野田 仁	中央アジア史
星 泉	チベット語学
峰岸 真琴	オーストラリア諸語
山越 康裕	モンゴル諸語
渡辺 己	セイリッシュ語

Peace and Conflict Studies プログラム

教員名	専門分野
伊勢崎 賢治	平和構築
篠田 英朗	平和構築
松永 泰行	政治学・国際関係論

国際日本専攻

国際日本研究プログラム

教員名	専門分野
阿部 新	日本語教育学
荒川 洋平	認知言語学

海野 多枝	言語教育学
川村 大	日本語学
佐藤 正広	日本近代史
柴田 勝二	日本近代文学

鈴木 智美	日本語教育学
谷口 龍子	語用論、日本語教育学
友常 勉	日本思想史
中井 陽子	日本語教育学

花園 悟	日本語学
春名 展生	日本史、日本政治
フィリップ・シートン	現代日本研究
村尾 誠一	日本古典文学

共同サステナビリティ研究専攻

教員名	専門分野
武内 進一	アフリカ研究、国際関係論

中山 智香子	経済思想・社会思想
李 孝徳	比較文学

主な就職先

博士前期課程修了者の主な就職先

■ 製造業

(株)伊藤園/出光興産(株)/住友化学(株)/(株)ブリヂストン/住友電気工業(株)/蛇の目ミシン工業(株)/スリーエムジャパン(株)/カシオ計算機(株)/ソニー(株)/ダイキン工業(株)/(株)東芝/日本アイ・ピー・エム(株)/日本電気(株)/日本トムソン(株)/日本ヒューレット・パカード(株)/パナソニック(株)/(株)日立製作所/富士ゼロックス(株)/富士通(株)/本田技研工業(株)/マツダ(株)/三菱自動車工業(株)/三菱重工業(株)/森永乳業(株)/矢崎総業(株)/(株)ソニー・コンピュータエンタテインメント/大王製紙(株)/(株)リコー/ヤマハ(株)/日立アプライアンス(株)/日立オートモティブシステムズ(株)/(株)レナウン/フルサトグループ/住友重機械工業(株)/アルプスアルパイン(株)/三菱日立パワーシステムズ(株)/いすゞ自動車(株)/自動車部品工業(株)

■ 電気・ガス・熱供給・水道業

中国電力(株)/東京ガス(株)

■ 鉱業、採石業、砂利採取業

国際石油開発帝石(株)

■ 情報通信業

(株)インターネットイニシアティブ/(一社)共同通信社/慶應義塾大学出版会(株)/小松情報システムサービス(株)/(株)産業経済新聞社/上海東方テレビ(中国)/(株)集英社/(株)大和総研/(株)中日新聞社/(株)日本経済新聞社/(株)西日本新聞社/日本放送協会(NHK)/(株)東日本放送/(株)毎日新聞社/富士ソフト(株)/富士ゼロックスシステムサービス(株)/明治図書出版(株)/読売新聞グループ/(株)リクルートホールディングス/勉強出版(株)/(財)ラチオプレス/(株)イーブックイニシアティブジャパン/(株)コムニク/ソニーミュージックグループ/(株)朝日出版社/NTTコミュニケーションズ(株)/SAKURA MOBILE/YAMAGATA INTECH(株)/パクテラ・テクノロジー・ジャパン(株)/プラステル(株)/楽天(株)

■ 運輸業、郵便業

(株)商船三井/ヤマト運輸(株)/日本通運(株)

■ 卸売・小売業

宇津商事(株)/(株)カインズ/住友商事(株)/(株)セブン・イレブン・ジャパン/双日(株)/豊田通商(株)/(株)日立ハイテクノロジーズ/三井物産(株)/三菱商事(株)/森村商事(株)/(株)ルイ・ヴィトンジャパンカンパニー/(株)ユニクロ/(株)ニトリ/阪和興業(株)/(株)ノジマ/アスクル(株)/(株)大月真珠/(株)retro(AG)

■ 金融業・保険業

アメリカン・エクスプレス・ジャパン(株)/岡三証券(株)/JPモルガン証券(株)/ソシエテ・ジェネラル証券(株)/大和証券(株)/日本銀行/(株)日本政策投資銀行/(株)日本政策金融公庫/みずほ証券(株)/(株)三菱UFJ銀行/(株)ゆうちょ銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)

■ 建設業

新日鉄住金エンジニアリング(株)/大成建設(株)

■ 不動産業

野村不動産(株)/(株)エレマックス/アーバンシステム(株)

■ 教育、学習支援業・学校教育

慶應義塾大学/(独)日本学生支援機構/(株)栄光/神奈川県立高等学校/鎌倉学園中学校・高等学校/佼成学園女子中学校・高等学校/國學院高等学校/埼玉県立小学校/昭和学院秀英中学校・高等学校/帝京大学/(株)Z会/東京外国語大学/東京大学/東京都立中学校/(株)ベネッセコーポレーション/宮城県立高等学校/山形県立高等学校/早稲田大学/東京農業大学/海城中学高等学校/ベオグラード大学(セルビア)/女子学院中学校・高等学校/学習院女子中・高等科/福州大学(中国)/桜美林大学/先端教育機構/筑波大学/工学院大学/東野高等学校/(株)ECC/(株)中萬学院/(株)朝日カルチャーセンター

■ 医療、福祉

日本赤十字社

■ サービス業

(独)国際交流基金/(独)日本学術振興会/(財)日本国際協力システム/(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所/(株)図書館流通センター/(公財)新国立劇場運営財団/(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構/(独)住宅金融支援機構/(公社)日本・インドネシア経済協力事業協会/ヒューマンリソシア(株)/(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構/(社)日本貿易会/(株)JPホールディングス/(独)日本学生支援機構

■ 公務

外務省/国立国会図書館/総務省(関東管区行政評価局)/東京都庁/農林水産省/防衛省(※自衛隊など含む)/横浜市役所/原子力規制庁/浦安市(千葉県)/杉並区役所

■ 学術研究専門・技術サービス業

アクセンチュア(株)/アンダーソン・毛利・友常法律事務所/グレイステクノロジー(株)/新エネルギー・産業技術総合開発機構/(株)テクニカルトランスレーションハウス/デロイト トーマツ コンサルティング合同会社/(株)電通/(財)日本海事協会/日本工営(株)/(株)ヒューマンサイエンス/(株)ホンヤク出版社/(株)ワールドインテック/(株)ブリコラージュ/(株)ヴィッツ/(株)NTTデータ経営研究所/(株)UL Japan/(株)ワークスアプリケーションズ/KPMG中国/アイテックジャパン(株)/アビームコンサルティング(株)/ソフトブレーン・サービス(株)/日本システム技術(株)

■ 宿泊業、飲食サービス業

(株)ベッパーフードサービス/(株)星野リゾート

■ 生活関連サービス業、娯楽業

(株)オリエンタルランド/(株)JTB/(株)CECIL/クラブツーリズム(株)/(株)ワールド航空サービス

博士後期課程修了者の主な就職先

■ 情報通信業

NHN PlayArt(株)

■ 卸売・小売業

(株)Super Dieboard System in Japan

■ 教育、学習支援業・学校教育

廈門大学(中国)/京都産業大学/高知大学/国際交流基金バンコク日本文化センター/島根大学/駿河台大学/西南学院大学/燕山大学外国語学院(中国)/青島科学技術大学(中国)/帝京科学大学総合教育センター/東京外国語大学/明星大学/東京早稲田外国語学校/名古屋外国語大学/国際教養大学/タシケント国立東洋学大学(ウズベキスタン)/中央大学高等学校/神奈川工科大学/雲南大学(中国)/広島大学/広島文教大学/山梨学院大学/上智大学/慶應義塾大学/筑波大学

■ サービス業

(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所

■ 公務

法務省

2020年度入学選抜日程

入学選抜日程の最新情報は、大学院総合国際学研究科のウェブサイトに掲載します。

博士前期課程

■募集人員

専攻	入学定員	コース	募集人員			
			特別選抜（推薦）	秋季	冬季	合計
世界言語社会専攻	102人	言語文化コース	若干名	50人*	若干名	50人
		国際社会コース	若干名	40人*	若干名	40人
		Peace and Conflict Studiesコース	—	—	12人	12人
国際日本専攻	46人	国際日本コース	若干名	40人*	若干名	40人
		日本語教育リカレントコース	—	6人	—	6人

*秋季募集の募集人員には、「冬季募集」「特別選抜（推薦入試）」の募集人員を含む。

■入学試験日程

特別選抜（推薦入試）[2020年4月入学]

出願期間	選抜期日 第1次選考（書類選考）	第1次合格者発表	第2次選考（口述試験）	最終合格者発表	入学手続
2019年 7月1日（月）～7月3日（水）	2019年 7月上旬	2019年7月12日（金）	2019年7月21日（日）	2019年7月26日（金）	2020年 1月21日（火）、1月22日（水）

秋季募集 [2020年4月入学]

出願期間	選抜期日 筆答試験	口述試験	最終合格者発表	入学手続
2019年 9月18日（水）～9月24日（火）	2019年10月12日（土）	2019年10月13日（日）	2019年11月8日（金）	2020年 1月21日（火）、1月22日（水）

冬季募集 [2020年4月入学] Peace and Conflict Studies コースは別日程

出願期間	選抜期日 第1次選考（筆答試験）	第2次選考（口述試験）	最終合格者発表	入学手続
2020年 1月6日（月）～1月8日（水）	2020年2月1日（土）	2020年2月1日（土） または2月2日（日）	2020年2月17日（月）	2020年 3月26日（木）、3月27日（金）

国際日本専攻 日本語教育リカレントコース [2020年10月入学]

出願期間	選抜期日 口述試験（Skype面接）	最終合格者発表	入学手続
2019年 9月18日（水）～9月24日（火）	2019年 10月7日（月）～10月13日（日）のうちいずれか1日	2019年11月8日（金）	2020年6月下旬～7月上旬

博士後期課程

■募集人員

専攻	募集人員 4月入学	10月入学	合計
世界言語社会専攻	22人	5人*	27人
国際日本専攻	9人	1人	10人
共同サステナビリティ研究専攻	2人	1人	3人

*世界言語社会専攻の「10月入学」に志願できる者は、次のいずれかに該当する者とする。

①Peace and Conflict Studies（PCS）分野を志願する者 ②出願時において、日本国を含む各国政府機関や国際機関等の正規の職員として、日本国以外で勤務中の者
③その他、個別の審査により、本学大学院総合国際学研究科長が適当と認めた者

■入学試験日程

[2020年4月入学]

出願期間	論文提出期間	選抜期日 筆答試験	口述試験	最終合格者発表	入学手続
2019年11月18日（月）～ 11月21日（木）	2019年11月18日（月）～ 2020年1月8日（水）	2020年1月25日（土）	2020年1月25日（土） または1月26日（日）	2020年2月17日（月）	2020年3月26日（木）、 3月27日（金）

[2020年10月入学]

出願期間	論文提出期間	選抜期日 口述試験	最終合格者発表	入学手続
2020年 3月2日（月）～5月8日（金）	※募集要項をご確認ください。	2020年5月下旬～6月上旬	2020年6月下旬	2020年7月下旬頃

府中キャンパスへのアクセス



電車

■ JR中央線

「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分

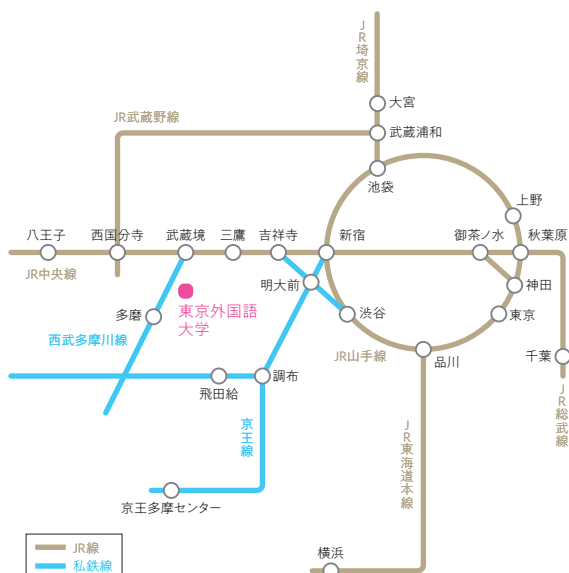
■ 京王線

「飛田給」駅下車 徒歩20分

電車 + バス

■ 京王線

「飛田給」駅下車
北口より「多磨」駅行き京王バスにて約10分
「東京外国語大学前」下車



西武多摩川線「多磨」駅までのアクセス ※目安時間

- 東京駅から 中央線快速利用 46分
- 上野駅から 京浜東北線・中央線快速利用 52分
- 横浜駅から 東海道本線利用 67分
- 千葉駅から 総武線快速・中央線快速利用 98分
- 大宮駅から 埼京線・武蔵野線利用 69分



国立大学法人 東京外国語大学

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

<http://www.tufs.ac.jp>

お問い合わせ先

Tel 042-330-5179